

# スマイルふぞく



## 1学期前期の御協力ありがとうございました！

昨年度、「当たり前と思っていた日常が、実はかけがえのない貴重なもの」と、身をもって再認識した私たちです。子どもたちが学校にいること、笑顔で語り合う姿、外で思いっきり遊べる昼休み、自分の考えや思いを伝え合う学びの場、途切れることのないいつもの学校風景に幸せが見える嬉しい毎日でした。

これもひとえに保護者の皆様から、1学期前期の「スマイル附属」を目指す取組に対し御理解と御協力をいただきましたおかげです。心よりお礼申し上げます。明日からの夏休みは、健康に御留意いただき、我が子を守り伸ばす関わりを各御家庭でお願いいたします。

## 親子で「メディアコントロール」する夏！

学校保健委員会で子どもの「自分用携帯・スマホ・タブレットの所有率」を調査した結果、47%の児童が自分用を持っていると分かりました。全体の約半数という高い数値です。使い方のルールがある家庭は80%。夏の始まりにはルールの再点検が必要です。家族で話し合ってルールを決め、自分の生活を自分でコントロールできるようになることを夏休みの目標の一つにしてください。生活習慣の自己調整力は、豊かな将来につながる自律に欠かせないものです。

今身に付けた「良い習慣」は、子どもたちの人生を支える強固な土台です。逆に、身に付いた「悪い習慣」は、大切なチャンスを逃したり困難を乗り越えようとする気力を削いだりする負のサイクルに子どもを引き込みます。

以前こんなことがありました。スマホやゲームを長時間する悪影響を学校で学んでいる時、1年生の子どもたちが「お父さん、お母さんがずっと見てる！」と発言したのです。家族団らんの時間には、子どもが寝付くまでスマホを置き、顔を見合わせて会話をする大人の姿が、子どものメディアコントロールを育む入口だと考えます。子どもの将来は、今の暮らし方が作ると捉え、この夏休み、メディア・SNS等との付き合い方を家族で話し合い、様々に試してください。子どもと向き合える貴重な夏の充実で、家族の絆が更に深まることを願っています。



無制限のテレビ視聴



深夜までゲーム三昧



オンラインゲームで課金



一日中SNS



長時間、制限無しの動画視聴

## 生き生きと

7月1日(木)に長崎県教育センターの理科講座において、理科部の松本教諭が、4年2組と「閉じ込めた空気をおすと、空気はどうなるのか」という目当てで理科の公開授業を行いました。

当日の授業の中で、子どもたちは「目に見えない空気を見えるように」図や言葉で表現したり、発泡スチロールを使って、空気が縮む様子を観察したり、生き生きとした表情で授業に向かっていました。

子どもが生き生きとした表情で授業に向かうことができるのは、日々の授業の積み重ねがあるからです。

だからこそ、2月の研究発表会では、全国から長崎附属の子どもたちの生き生きとした学びの姿を参観したい方々が、多数来ていただけるのです。

このように、安心して授業ができるのは、私たちの力だけではありません。子どもたちを見えないところで支えてくださっている方々のお陰です。見えないところで支えてくださっているすべての方々に感謝して、日々の授業を積み重ねていきます。

北斗の子一人一人が、生き生きと授業に臨むことができるよう、本校職員一同、これからも日々の授業を大切にしていきます。

文責 教頭 松永

## 正？不規則？

教育心理学者が行った三角形と四角形を未習である子どもに教えるという実験があります。まず、次のグループに分けます。

- ①正三角形や正方形を例に挙げて教える。
- ②不規則な三角形と四角形を例に挙げて教える。

その後、多くの図形の中から三角形や四角形を選び出してもらうという実験です。

結果は、②のグループが良い成績を収めました。不規則な図形で教わることにより、必要以上に狭く限定的に考えることを妨げたのが要因だそうです。

さて、この実験から何が言えるのでしょうか。それは、「様々な形で試行錯誤することが大切である」ということです。

夏休みに置き換えると、様々な体験や学び等を試行錯誤できるようにするということがかなあと感じたところでした。

文責 主幹 池田

## 一緒に

実家の書棚から色褪せた原稿用紙を見付けました。乱丁な字で書かれていましたが、一目で父親が書いたものだとわかりました。社内誌に載せるコラムとして当時小学5年生の私と市内の遺構を巡った「長崎歴史散策」と題した町歩きについてでした。なぜ、二人で行ったのかは記憶にありませんが、嬉しくて前日眠れなかったこと、いつも寡黙な父が嬉しそうに私に話してくれたこと、帰りに二人で食べたラーメンの味、今から31年前のことですが、はっきりと憶えています。

いよいよ夏休みが始まります。コロナ禍の中で特別なことが出来なくとも一緒に活動することで、共感し合ったり、新たな成長や発見があったりします。そして、一緒にしてくれたことが子どもにとって何よりも嬉しいはずです。心に大きなおみやげを残す夏休みになることを心から願っています。

文責 教務 橋田